兵庫ジャーナル1861号
8月9日掲載

県土木職ＯＢが若手指導

技術伝承などで研修会開く

県土木技術職ＯＢのマイスターが手書き図面についてきめ細かに指導した

ひょうご土木技術マイスター９人
手書き設計など熟練の技伝授

県と県まちづくり技術センター（吉村文章理事長）はこのほど、県土木技術職ＯＢのベテラン９人を講師に、若手の土木技術職員への研修会を実施した。

９人は豊富な経験と優れた見識を持つ「ひょうご土木技術マイスター」。現地調査による砂防えん堤の位置選定方法、手書きによる図面作成の技術といったアナログ世代の熟練技術をデジタル時代の若手職員に指導した。全国初の手書き設計ＯＪＴ（概略設計）となる。

自然災害が頻発する一方、県の土木職を志す若手職員は減少傾向にあり、団塊世代の大量退職と相まって技術の伝承と維持が困難になっているという。

研修は手書き設計の基礎などを身につけ、ノウハウを引き継いでもらうのがねらい。7月13日から15日、26日から28日の連続2週にわたって行われた。

講義や机上での設計では、ＣＡＤ世代の職員が手書きの製図にチャレンジ。現場にも一緒に足を運び、「えん堤の位置を決めるポイント」など、設計をする上での留意点について説明を受けた。

きめ細かに指導するマイスターに、若手職員は「設計の理解が深められた」「手書きの製図は勉強になる」と感想。マイスターからは「研修成果を職場で生かしてほしい」など総じて好評を博していた。

現場にも足を運び、若手職員に留意点などを説明した

主催した県まちづくり技術センターの西川宏樹・情報政策課長は「今回は但馬・丹波の若手職員等を対象にしたが、今後は他の土木事務所でも同研修機会の提供を進めていきたい」と話している。